

講義要綱

【授業科目名】解剖学Ⅵ	【分野】専門基礎分野	【学年】2年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】島田和幸	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 人体の構造と形態を中心に機能および臨床と関連を学ぶ。(感覚器系、および体表解剖)			
【行動目標・到達目標:SBOs】 解剖学用語を正しく理解し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。			
【 授 業 内 容 】			
< 前 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚器系Ⅰ 2. 感覚器系Ⅱ 3. 感覚器系Ⅲ 4. 感覚器系Ⅳ 5. 感覚器系Ⅴ 6. 感覚器系Ⅵ 7. 感覚器系総復習 8. 体表解剖学概論 9. 頭頸部 10. 背部 11. 胸部・腹部 12. 骨盤 13. 上肢・下肢 14. 体表解剖学総復習 15. まとめ 			
【テキストなど】 テキスト:「解剖学」「解剖学マスター」 なお、必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】解剖学Ⅶ	【分野】専門基礎分野	【学年】2年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】島田和幸	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 人体の構造と形態を中心に機能および臨床と関連を学ぶ。(まとめ)			
【行動目標・到達目標:SBOs】 人体構造に関する総復習をして、それらの知識を臨床の場面等で使えることができる。			
【 授 業 内 容 】			
< 後 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨格系Ⅰ 2. 骨格系Ⅱ 3. 筋系Ⅰ 4. 筋系Ⅱ 5. 筋系Ⅲ 6. 内臓系Ⅰ 7. 内臓系Ⅱ 8. 内臓系Ⅲ 9. 循環器系Ⅰ 10. 循環器系Ⅱ 11. 循環器系Ⅲ 12. 神経系と感覚器系Ⅰ 13. 神経系と感覚器系Ⅱ 14. 神経系・感覚器系 15. まとめ 			
【テキストなど】 テキスト:「解剖学」「解剖学マスター」 なお、必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

2019年度

講義要綱

【授業科目名】 生理学Ⅱ	【分野】 専門基礎分野	【学年】 2年	【学期】 前・後期
【学科】 柔道整復科	【講師名】 佐藤 斎	【授業コマ数】 30	【授業時間数】 60 【単位数】 2
【一般目標:GIO】 細胞や組織、器官等の個々の働きを知ると共に、これらがどのように互いに連絡を取り合って統一体として働いているか、また、これらが複数集まって作るシステムとしての新たな働きを学ぶことによって人間に対する理解を深める。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 生理学用語を正しく理解し、それらを臨床の場で正しく使うことができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 内分泌系の機能:内分泌腺、ホルモンの一般的性質、種類と作用 2. 内分泌系の機能:視床下部ホルモン、下垂体ホルモン 3. 内分泌系の機能:甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン 4. 内分泌系の機能:副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン 5. 内分泌系の機能:睪臓のホルモン 6. 内分泌系の機能:性ホルモン、その他のホルモン 7. 生殖:性染色体、性分化、生殖器の構成、性周期、妊娠分娩とホルモン 8. 骨の生理学:構造、形成と成長、骨の代謝 9. 骨の生理学:骨の異常 10. 神経の基礎:神経細胞の形態、神経細胞の興奮と電位、イオンチャンネル 11. 神経の基礎:興奮の伝導 12. 神経の基礎:興奮の伝達、シナプス、化学伝達物質 13. 神経系の機能:神経系の成り立ち 14. 神経系の機能:自律神経と視床下部による内臓機能の調節 15. 期末試験の解答と解説		1. 神経系の機能:運動と姿勢の調節(脊髄レベルでの調節) 2. 神経系の機能:運動と姿勢の調節(脳幹による調節) 3. 神経系の機能:運動と姿勢の調節(大脳基底核、小脳による調節) 4. 神経系の機能:運動と姿勢の調節(大脳皮質による調節) 5. 神経系の機能:高次機能(脳波、睡眠) 6. 神経系の機能:高次機能(本能、情動、言語) 7. 神経系の機能:高次機能(学習、記憶、分離脳) 8. 筋肉の生理学:分類、構造、収縮のしくみ、収縮の仕方、長さや張力 9. 筋肉の生理学:収縮エネルギー、熱産生、心筋、平滑筋 10. 感覚の生理学:総論、体性感覚 11. 感覚の生理学:体性感覚、内臓感覚 12. 感覚の生理学:味覚、嗅覚 13. 感覚の生理学:視覚 14. 感覚の生理学:聴覚、平衡感覚 15. 期末試験の解答と解説	
【テキストなど】 テキスト:「生理学」第3版 南江堂 参考書:標準生理学 第8版(医学書院)小澤、福田(監修)、ギャング生理学 原著25版(丸善出版)岡田(監修)生理学テキスト 第8版(文光堂)大地陸男(著)、絵でみる脳と神経 第4版(医学書院)馬場元毅(著)			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行なう。			
【授業実施上の留意点】 教科書の講義予定の部分であらかじめ読んでおく。学んだことは、記憶が薄れる前に絶えず復習し、記憶として固定するように努めること。			

講義要綱

【授業科目名】病理学	【分野】専門基礎分野	【学年】2年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】石崎正通	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 生命現象の異常状態の表現である各種疾病について、その原因と成り立ちとその結果について基礎的な知識を獲得し、種々の疾患の病理学的な理解を深める。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 1) 疾患の基本的病態を系統的に説明出来る。 2) 病態の発生機構と関連因子についての説明出来る。 3) 病理学的用語を理解し正しく使える。			
【 授 業 内 容 】			
< 前 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常性をゆがめる原因：内因、外因 2. 細胞、組織の障害：壊死、萎縮等 3. 代謝障害：細胞・組織の変性と物質沈着 4. 循環障害(1)：充血、うっ血、虚血、出血、梗塞、血栓症 5. 循環障害(2)：塞栓症、微小循環と浮腫、ショック、脱水 6. 進行性変化(1)：肥大と過形成、再生、化生 7. 進行性変化(2)：創傷の治癒と肉芽組織、異物処理、移植 8. 炎症(1)：炎症とは、基本変化 9. 炎症(2)：各種炎症 10. 免疫(1)：自然免疫、特異免疫、免疫のeffector 11. 免疫(2)：アレルギー、自己免疫、免疫不全症 12. 腫瘍(1)：腫瘍とは、良性和悪性の違い 13. 腫瘍(2)：上皮性、非上皮性腫瘍、悪性腫瘍の進展と転移 14. 先天性疾患：遺伝的要因(染色体異常、遺伝子異常) 15. 試験解説とまとめ 			
【テキストなど】 講義前にプリントを配布する。 テキスト：「病理学概論」全国柔道整復学校協会監修、関根一郎著、医歯薬出版 参考書：「カラーで学べる病理学」渡辺照男編集、ヌーベルヒロカワ出版			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行なう。			
【授業実施上の留意点】 出席すること			

講義要綱

【授業科目名】一般臨床医学Ⅰ	【分野】専門基礎分野	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】浅谷健介	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 臨床で遭遇する疾患の基本原理を理解し、適切な検査・鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、医学的知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 実際の臨床の場において患者の訴えを的確に聴取することができるように理解を深める。 実際の施術の場において身体の全身、局所の正しい観察ができるように検査も含め知識を深める。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 診察、診断	1. 出血傾向	2. リンパ節腫脹	3. 意識障害、チアノーゼ
2. 視診①	4. 関節痛、浮腫	5. 肥満、るいそう	6. 生命徴候測定
3. 視診②	7. 生理検査、検体検査	8. 呼吸器疾患①	9. 呼吸器疾患②
4. 聴診①	8. 呼吸器疾患①	10. 呼吸器疾患③	11. 循環器疾患①
5. 聴診②	9. 呼吸器疾患②	12. 循環器疾患②	13. 循環器疾患③
6. 触診①	10. 呼吸器疾患③	13. 循環器疾患③	14. 循環器疾患④
7. 触診②	11. 循環器疾患①	14. 循環器疾患④	15. まとめ
8. 生命徴候	12. 循環器疾患②		
9. 感覚検査①	13. 循環器疾患③		
10. 感覚検査②	14. 循環器疾患④		
11. 反射①	15. まとめ		
12. 反射②			
13. 反射③			
14. 発熱			
15. まとめ			
【テキスト】 テキスト:「一般臨床医学」 使用教材:配布プリント、血圧計、聴診器、打診槌、爪楊枝、筆、音叉、ペンライト			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。 基礎的知識をしっかりとつけてもらう授業内容に努める。			

講義要綱

【授業科目名】整形外科学Ⅰ		【分野】専門基礎分野	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】木田将量	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 臨床で遭遇する整形外科疾患の基本を理解し、適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、医学的知識ならびに技能について習得する。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 実際の臨床の場において患者の訴えを的確に聴取することができるように理解を深める。 実際の臨床の場において業務範囲内外の鑑別が正しくできるように検査も含め知識を深める。				
【 教 育 内 容 】				
＜ 前 期 ＞		＜ 後 期 ＞		
1. 運動器の基礎知識	2. 整形外科診察法	3. 整形外科的治療法	4. 骨・関節損傷総論①	5. 骨・関節損傷総論②
6. スポーツ整形外科概論	7. 疾患別各論(感染性疾患)	8. 疾患別各論(骨腫瘍)①	9. 疾患別各論(骨腫瘍)②	10. 疾患別各論(軟部腫瘍)
11. 疾患別各論(非感染性軟部・骨関節疾患)①	12. 疾患別各論(非感染性軟部・骨関節疾患)②	13. 疾患別各論(非感染性軟部・骨関節疾患)③	14. 疾患別各論(非感染性軟部・骨関節疾患)④	15. まとめ
1. 全身性の骨・軟部疾患①	2. 全身性の骨・軟部疾患②	3. 全身性の骨・軟部疾患③	4. 骨端症①	5. 骨端症②
6. 四肢循環障害①	7. 四肢循環障害②	8. 神経・筋疾患①	9. 神経・筋疾患②	10. 神経・筋疾患③
11. 体幹の疾患①	12. 体幹の疾患②	13. 体幹の疾患③	14. 体幹の疾患④	15. まとめ
【テキスト】 テキスト:「整形外科学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。				

講義要綱

【授業科目名】柔道整復術の適応	【分野】専門基礎分野	【学年】2年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】佐々木 皓平	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】 柔道整復師の業務範囲を理解し、業務範囲の疾患を鑑別できようにする。 業務範囲の疾患に対して柔道整復術を適切に実施できるの能力を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 発生機序、好発年齢、好発部位を理解し疾患を判断できるようにする。 検査法、知覚検査、腱反射などを実施して疾患を鑑別できるようにする。 各関節の疾患を理解し鑑別できるようにする。			
【 教 育 内 容 】			
＜ 前 期 ＞		＜ 後 期 ＞	
1.		1.	上肢の神経の解剖とデルマトーム(感覚検査)
2.		2.	下肢の神経の解剖とデルマトーム(感覚検査)
3.		3.	脊髄のレベルと腱反射(実技)
4.		4.	頸椎ヘルニア①(概要・デルマトーム・腱反射)
5.		5.	頸椎ヘルニア②(検査法)
6.		6.	頸椎ヘルニア③(診察の流れ)
7.		7.	腰椎ヘルニア①(概要・デルマトーム・腱反射)
8.		8.	腰椎ヘルニア②(検査法)
9.		9.	腰椎ヘルニア③(診察の流れ)
10.		10.	胸郭出口症候群①
11.		11.	胸郭出口症候群②
12.		12.	梨状筋症候群
13.		13.	後縦靭帯骨化症
14.		14.	脊柱管狭窄症
15.		15.	まとめ
【テキスト】 テキスト:特になし。資料を配布			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

講義要綱

【授業科目名】柔道Ⅱ	【分野】専門基礎分野	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】難波英樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 柔道の実技・理論の学習を通じ、柔道整復師として全人的な人間形成を目指す。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復のルーツである武道を学ぶことにより、柔道整復手技の成立を探究し、臨床の場における手技技術を向上させる。			
【 授 業 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. ガイダンス 2. 投技、固技、乱取り 3. 投技、固技、乱取り 4. 投技、固技、乱取り 5. 投技、固技、乱取り 6. 投技、固技、乱取り 7. 投技、固技、乱取り 8. 投技、固技、乱取り 9. 投技、固技、乱取り 10. 投技、固技、乱取り 11. 投技、固技、乱取り 12. 投技、固技、乱取り 13. 投技、固技、乱取り 14. 投技、固技、乱取り 15. まとめ		1. 柔道の形の説明 2. 投技、固技、乱取り、形 3. 投技、固技、乱取り、形 4. 投技、固技、乱取り、形 5. 投技、固技、乱取り、形 6. 投技、固技、乱取り、形 7. 投技、固技、乱取り、形 8. 投技、固技、乱取り、形 9. 投技、固技、乱取り、形 10. 投技、固技、乱取り、形 11. 投技、固技、乱取り、形 12. 投技、固技、乱取り、形 13. 投技、固技、乱取り、形 14. 投技、固技、乱取り、形 15. まとめ	
【テキストなど】 テキスト: なし。必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の試験において評価を行なう。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】	社会保障制度	【分野】	専門基礎分野	【学年】	2年	【学期】	後期		
【学科】	柔道整復科	【講師名】	伊藤浩二	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30	【単位数】	1
【一般目標:GIO】									
医療保険、医療扶助制度、受療委任制度などの社会保障制度を理解する。									
【行動目標・到達目標:SBOs】									
医療保険制度と保険者、被保険者について理解する。 柔道整復師の算定料金と療養費支給申請の手続きを理解する。 労災保険、自賠責保険について理解する。 医療扶助制度について理解する。									
【 教 育 内 容 】									
< 後 期 >									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度と種類 2. 社会保険について 3. 医療保険制度と医療費 4. 医療保険の種類と保険者、被保険者 5. 柔道整復師と医療保険(償還払い、受領委任制度) 6. 柔道整復師の療養費の算定料金① 7. 柔道整復師の療養費の算定料金② 8. 柔道整復師の療養費支給申請 9. 医療扶助制度 10. 労災保険 11. 自賠責保険 12. 生活保護 13. 介護保険 14. 医療保険、医療費の動向と問題点 15. 総復習 									
【テキスト】									
テキスト:特になし 適時、必要に応じてプリントを配布する。									
【成績評価方法】									
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。									
【授業実施上の留意点】									

講義要綱

【授業科目名】基礎柔道整復学V		【分野】専門分野		【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】片桐秀樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2	
【一般目標:GIO】 柔道整復学の臨床を理解し、頭蓋骨・体幹の外傷に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、知識ならびに技能について習得する。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。					
【 教 育 内 容 】					
< 前 期 >			< 後 期 >		
1. 頭部・顔面の解剖と機能	2. 頭部・顔面の骨折①	3. 頭部・顔面の骨折②	4. 顎関節脱臼①	5. 顎関節脱臼②	6. 顎関節脱臼③
7. 頭部・顔面部の軟部組織損傷	8. 頸部の解剖と機能	9. 頸部の骨折・脱臼①	10. 頸部の骨折・脱臼②	11. 頸部の骨折・脱臼③	12. 頸部の軟部組織損傷①
13. 頸部の軟部組織損傷②	14. 頸部の軟部組織損傷③	15. まとめ	1. 胸椎の骨折・脱臼①	2. 胸椎の骨折・脱臼②	3. 胸椎の骨折・脱臼③
			4. 胸椎の骨折・脱臼④	5. 胸背部の軟部組織損傷①	6. 胸背部の軟部組織損傷②
			7. 胸背部の軟部組織損傷③	8. 腰部、仙骨部の解剖と機能	9. 腰椎の骨折・脱臼①
			10. 腰椎の骨折・脱臼②	11. 腰椎の骨折・脱臼③	12. 腰部の軟部組織損傷①
			13. 腰部の軟部組織損傷②	14. 腰部の軟部組織損傷③	15. まとめ
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。					

講義要綱

【授業科目名】臨床柔道整復学Ⅰ	【分野】専門分野	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】片桐陽	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 柔道整復学の基礎を理解し、上肢の骨折・脱臼に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 上腕骨骨幹部骨折①	1. 前腕骨骨幹部骨折①	2. 上腕骨骨幹部骨折②	2. 前腕骨骨幹部骨折②
2. 上腕骨骨幹部骨折②	3. 前腕骨骨幹部骨折③	3. 上腕骨骨幹部骨折③	4. 前腕部の軟部組織損傷
3. 上腕骨骨幹部骨折③	4. 前腕骨遠位端部骨折①	4. 肘関節部の機能と解剖	5. 前腕骨遠位端部骨折②
4. 肘関節部の機能と解剖	6. 前腕骨遠位端部骨折③	5. 上腕骨遠位端部骨折①	7. 前腕骨遠位端部骨折④
5. 上腕骨遠位端部骨折①	8. 前腕骨遠位端部骨折④	6. 上腕骨遠位端部骨折②	9. 手根部の骨折①
6. 上腕骨遠位端部骨折②	9. 手根部の骨折①	7. 上腕骨遠位端部骨折③	10. 手根部の骨折②
7. 上腕骨遠位端部骨折③	10. 手根部の骨折②	8. 上腕骨遠位端部骨折④	11. 手根部の骨折③
8. 上腕骨遠位端部骨折④	11. 手根部の骨折③	9. 前腕骨近位部の骨折①	12. 手関節部の脱臼①
9. 前腕骨近位部の骨折①	12. 手関節部の脱臼①	10. 前腕骨近位部の骨折②	13. 手関節部の軟部組織損傷①
10. 前腕骨近位部の骨折②	13. 手関節部の軟部組織損傷①	11. 肘関節の脱臼①	14. 手関節部の軟部組織損傷②
11. 肘関節の脱臼①	14. 手関節部の軟部組織損傷②	12. 肘関節の脱臼②	15. まとめ
12. 肘関節の脱臼②		13. 肘関節の脱臼③	
13. 肘関節の脱臼③		14. 肘関節の脱臼④	
14. 肘関節の脱臼④		15. まとめ	
15. まとめ			
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

講義要綱

【授業科目名】臨床柔道整復学Ⅱ		【分野】専門分野		【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】橘和豊 片桐秀樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2	
【一般目標:GIO】 柔道整復学の臨床を理解し、下肢の骨折、脱臼に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、知識ならびに技能について習得する。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。					
【 教 育 内 容 】					
< 前 期 >橘			< 後 期 >片桐		
1. 骨盤骨骨折①		1. 膝関節脱臼①			
2. 骨盤骨骨折②		2. 膝関節脱臼②			
3. 大腿骨近位端部骨折①		3. 膝蓋骨骨折①			
4. 大腿骨近位端部骨折②		4. 膝蓋骨骨折②			
5. 大腿骨近位端部骨折③		5. 下腿骨骨幹部骨折①			
6. 股関節脱臼①		6. 下腿骨骨幹部骨折②			
7. 股関節脱臼②		7. 下腿骨骨幹部骨折③			
8. 大腿骨骨幹部骨折①		8. 下腿骨遠位端部骨折①			
9. 大腿骨骨幹部骨折②		9. 下腿骨遠位端部骨折②			
10. 大腿骨骨幹部骨折③		10. 足根骨骨折①			
11. 大腿骨遠位端部骨折①		11. 足根骨骨折②			
12. 大腿骨遠位端部骨折②		12. 足根骨の骨折			
13. 下腿骨近位端部骨折①		13. 中脚骨の骨折			
14. 下腿骨近位端部骨折②		14. 指骨の骨折と足部の脱臼			
15. まとめ		15. まとめ			
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。					

講義要綱

【授業科目名】臨床柔道整復学Ⅲ	【分野】専門分野	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】水元宏哉	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 柔道整復学の臨床を理解し、上肢・下肢の軟部組織損傷に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 肩関節部の軟部組織損傷①	1. 股関節部の軟部組織損傷①	2. 股関節部の軟部組織損傷②	2. 股関節部の軟部組織損傷②
2. 肩関節部の軟部組織損傷②	3. 大腿部の軟部組織損傷①	3. 大腿部の軟部組織損傷②	3. 大腿部の軟部組織損傷①
3. 肩関節部の軟部組織損傷③	4. 膝関節部の軟部組織損傷①	4. 膝関節部の軟部組織損傷②	4. 膝関節部の軟部組織損傷①
4. 肩関節部の軟部組織損傷④	5. 膝関節部の軟部組織損傷③	5. 膝関節部の軟部組織損傷④	5. 膝関節部の軟部組織損傷②
5. 肩関節部の軟部組織損傷⑤	6. 膝関節部の軟部組織損傷④	6. 膝関節部の軟部組織損傷⑤	6. 膝関節部の軟部組織損傷③
6. 肘関節部の軟部組織損傷①	7. 下腿部の軟部組織損傷	7. 足関節部の軟部組織損傷①	7. 足関節部の軟部組織損傷③
7. 肘関節部の軟部組織損傷②	8. 足関節部の軟部組織損傷①	8. 足関節部の軟部組織損傷②	8. 足関節部の軟部組織損傷④
8. 肘関節部の軟部組織損傷③	9. 足関節部の軟部組織損傷③	9. 足部の軟部組織損傷	9. 足関節部の軟部組織損傷⑤
9. 肘関節部の軟部組織損傷④	10. 足部の軟部組織損傷	10. 足部の軟部組織損傷	10. 足関節部の軟部組織損傷①
10. 肘関節部の軟部組織損傷⑤	11. 足部の軟部組織損傷	11. 足部の軟部組織損傷	11. 足関節部の軟部組織損傷②
11. 手部・指部の軟部組織損傷①	12. 足部の軟部組織損傷	12. 足部の軟部組織損傷	12. 足関節部の軟部組織損傷③
12. 手部・指部の軟部組織損傷②	13. 足部の軟部組織損傷	13. 足部の軟部組織損傷	13. 足関節部の軟部組織損傷④
13. 手部・指部の軟部組織損傷③	14. 足部の軟部組織損傷	14. 足部の軟部組織損傷	14. 足部の軟部組織損傷
14. 手部・指部の軟部組織損傷④	15. 足部の軟部組織損傷	15. 足部の軟部組織損傷	15. 足部の軟部組織損傷
15. まとめ	15. まとめ	15. まとめ	15. まとめ
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

講義要綱

【授業科目名】物理療法学 (物療機器等の取扱い)	【分野】専門分野	【学年】2年 【学期】前期
【学科】柔道整復科 【講師名】伊藤浩二	【授業コマ数】15	【授業時間数】30 【単位数】1
【一般目標:GIO】 物理療法機器の特徴と効果を理解し、各疾患に対して適切な治療を行うことができること。		
【行動目標・到達目標:SBOs】 各物療機器の特徴と効果を理解し適切な療養費算定ができるようにする。 各物療機器の取扱い方法を理解する。 各疾患に対して物理療法機器を選択し適切に治療することができる。		
【 教 育 内 容 】		
< 前 期 >	< 後 期 >	
1. 物療機器の特徴と禁忌	1.	
2. 物理療法と療養費の算定料金	2.	
3. 温熱療法機器の特徴と操作法①	3.	
4. 温熱療法機器の特徴と操作法②	4.	
5. 電気療法機器の特徴と操作法①	5.	
6. 電気療法機器の特徴と操作法②	6.	
7. 電気療法機器の特徴と操作法③	7.	
8. 光線療法機器の特徴と操作法①	8.	
9. 牽引療法機器の特徴と操作法①	9.	
10. 牽引療法機器の特徴と操作法②	10.	
11. 疾患別の物理療法①	11.	
12. 疾患別の物理療法②	12.	
13. 疾患別の物理療法③	13.	
14. 疾患別の物理療法④	14.	
15. まとめ	15.	
【テキスト】 テキスト:なし ほか、必要に応じてプリントを使用する。		
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。		
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。		

講義要綱

【授業科目名】画像読影学 (柔道整復術適応の臨床的判定)	【分野】専門分野	【学年】2年	【学期】前期	
【学科】柔道整復科	【講師名】伊藤浩二	【授業コマ数】15	【授業時間数】30	【単位数】2
【一般目標:GIO】 各種医用画像の特徴を理解し、読影し柔道整復術の適応か判断することができる。 医用画像を読影し、治療経過を判断することができる。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 X線画像の特徴を理解し読影することができる。 MRI画像の特徴を理解し読影することができる。 超音波の特徴を理解し読影することができる。				
【 教 育 内 容 】				
< 前 期 >				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種画像機器の特徴 2. 単純X線画像 上肢① 3. 単純X線画像 上肢② 4. 単純X線画像 上肢③ 5. 単純X線画像 下肢① 6. 単純X線画像 下肢② 7. 単純X線画像 下肢③ 8. 単純X線画像 脊椎① 9. 単純X線画像 脊椎② 10. CT、MRI画像① 11. CT、MRI画像② 12. 超音波画像① 13. 超音波画像② 14. 超音波画像② 15. まとめ 				
【テキスト】 テキスト:なし ほか、必要に応じてプリントを使用する。				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。				

講義要綱

【授業科目名】柔道整復実技Ⅱ	【分野】専門分野	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】坂口 雅明	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 柔道整復学の臨床を理解し、適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるようにする。 疾患に対する適切な治療法を適切に説明し、実施できるようにする。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 実際の臨床の場における後療法についての基礎を修得する。 疾患に適した手技療法、運動療法を学ぶ。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 医療面接①	2. 医療面接②	3. 医療面接③	4. 評価法①
5. 評価法②	6. 評価法③	7. 手技療法の基本①	8. 手技療法の基本②
9. 手技療法の基本③	10. 手技療法の基本④	11. 手技療法の基本⑤	12. 背部に対する手技療法
13. 背部に対する運動療法	14. 実技試験と練習	15. まとめ	
1. 肩部に対する手技療法	2. 肩部に対する運動療法	3. 頸部に対する手技療法	4. 肘部から手部に対する手技療法
5. 肘部から手部に対する運動療法	6. 臀部、大腿部に対する手技療法	7. 臀部、大腿部に対する運動療法	8. 膝部、下腿部に対する手技療法
9. 膝部、下腿部に対する運動療法	10. 足部に対する手技療法	11. 足部に対する手技療法	12. 手技療法応用①
13. 手技療法応用②	14. 実技試験と練習	15. まとめ	
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定法」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

講義要綱

【授業科目名】柔道整復実技Ⅲ		【分野】専門分野	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	片桐陽 水元宏哉	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 柔道整復学の臨床を十分に理解し、業務範囲内の疾患に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握し、処置できるよう、知識ならびに技能について習得する。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 各疾患に対して適切な検査、鑑別を行い、病態を評価し、治療プログラムを作成する。 臨床実習施術前試験として模擬患者に対して、疾患別に適切な治療法を実施し施術録に記載できるようにする。				
【 教 育 内 容 】				
< 前 期 >片桐陽		< 後 期 >水元		
1. 上肢の軟部組織損傷の検査法および治療法①	1. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法①	2. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法②	3. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法③	4. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法④
2. 上肢の軟部組織損傷の検査法および治療法②	2. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法②	3. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法③	4. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法④	5. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑤
3. 上肢の軟部組織損傷の検査法および治療法③	3. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法③	4. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法④	5. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑤	6. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑥
4. 上肢の軟部組織損傷の検査法および治療法④	4. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法④	5. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑤	6. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑥	7. 模擬患者に対するロールプレイング①
5. 上肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑤	5. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑤	6. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑥	7. 模擬患者に対するロールプレイング①	8. 模擬患者に対するロールプレイング②
6. 上肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑥	6. 下肢の軟部組織損傷の検査法および治療法⑥	7. 模擬患者に対するロールプレイング②	8. 模擬患者に対するロールプレイング②	9. 模擬患者に対するロールプレイング③
7. 模擬患者に対するロールプレイング①	7. 模擬患者に対するロールプレイング①	8. 模擬患者に対するロールプレイング③	9. 模擬患者に対するロールプレイング③	10. 模擬患者に対するロールプレイング④
8. 模擬患者に対するロールプレイング②	8. 模擬患者に対するロールプレイング②	9. 模擬患者に対するロールプレイング④	10. 模擬患者に対するロールプレイング④	11. 模擬患者に対するロールプレイング⑤
9. 模擬患者に対するロールプレイング③	9. 模擬患者に対するロールプレイング③	10. 模擬患者に対するロールプレイング⑤	11. 模擬患者に対するロールプレイング⑤	12. 模擬患者に対するロールプレイング⑥
10. 模擬患者に対するロールプレイング④	10. 模擬患者に対するロールプレイング④	11. 模擬患者に対するロールプレイング⑥	12. 模擬患者に対するロールプレイング⑥	13. 模擬患者に対するロールプレイング⑦
11. 模擬患者に対するロールプレイング⑤	11. 模擬患者に対するロールプレイング⑤	12. 模擬患者に対するロールプレイング⑦	13. 模擬患者に対するロールプレイング⑦	14. 模擬患者に対するロールプレイング⑧
12. 模擬患者に対するロールプレイング⑥	12. 模擬患者に対するロールプレイング⑥	13. 模擬患者に対するロールプレイング⑧	14. 模擬患者に対するロールプレイング⑧	15. まとめ
13. 模擬患者に対するロールプレイング⑦	13. 模擬患者に対するロールプレイング⑦	14. 模擬患者に対するロールプレイング⑧	15. まとめ	
14. 模擬患者に対するロールプレイング⑧	14. 模擬患者に対するロールプレイング⑧			
15. まとめ	15. まとめ			
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。				

講義要綱

【授業科目名】機能訓練指導実技	【分野】専門分野	【学年】2年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】伊藤浩二	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 高齢者の生理学的特徴・変化を理解し、外傷予防法、機能訓練指導を適切に実施できるようにする。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 障害の状態を評価し、状態に応じた機能訓練プログラムが作成できるようにする。 器具を用いた運動と器具を用いない運動を理解し実施できるようにする。 高齢者に対するストレッチ法を理解し実施できるようにする。			
【 授 業 内 容 】			
＜ 前 期 ＞	＜ 後 期 ＞		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者自立支援の理解① (ポジショニングとシーティング) 2. 高齢者自立支援の理解② (ポジショニングとシーティング) 3. 装具使用と補助(車椅子、杖) 4. ロコモーショントレーニング 5. 運動開始前の予備運動・背臥位で行う運動 6. 立位で行う上肢・体幹のストレッチング 7. 立位で行う下肢のストレッチング 8. 床上で行う上肢・体幹のストレッチング 9. 筋力を向上させる運動① 10. 筋力を向上させる運動② 11. 筋力を向上させる運動③ 12. 器具を用いた運動① 13. 器具を用いた運動② 14. 器具を用いた運動③ 15. まとめ 		
【テキストなど】 テキスト:「柔道整復師と機能訓練指導」 その他: 授業では主にプリントを使用する。			
【成績評価方法】 出席状況により評価する。			
【授業実施上の留意点】 授業中にマークシートを利用する場合もあるので、鉛筆・消しゴムを持参すること。			

2019年度

講義要綱

【授業科目名】スポーツコンディショニング実技	【分野】専門分野	【学年】2年	【学期】前期	
【学科】柔道整復科	【講師名】伊藤浩二	【授業コマ数】15	【授業時間数】30	【単位数】1
【一般目標:GIO】 各スポーツの動きを理解し、各スポーツ選手の競技復帰のプログラムを作成できるようにする。 競技復帰や再発予防の知識と技術を習得する。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 再発予防のテーピング法を各関節に実施することができる。 筋の起始・停止を理解し、筋の緊張状態を評価し適切にストレッチを実施することができる。 各スポーツの特徴に応じたトレーニング法を理解し実施することができる。				
【 授 業 内 容 】				
< 後 期 >				
1. 再発予防テーピング 肩関節				
2. 再発予防テーピング 膝関節				
3. 再発予防テーピング 足関節				
4. ウォーミングアップ、クールダウン				
5. ストレッチング①				
6. ストレッチング②				
7. ストレッチング③				
8. レジスタンストレーニング①				
9. レジスタンストレーニング②				
10. レジスタンストレーニング③				
11. スピード系トレーニング(アジリティー、ラダー)				
12. バランストレーニング①(バランスボールなど)				
13. バランストレーニング②(バランスボールなど)				
14. プライオメトリクス				
15. まとめ				
【テキストなど】 テキスト:「ストレングス&コンディショニングⅡ(エクササイズ編)」 その他: 授業では主にプリントを使用する。				
【成績評価方法】 出席状況により評価する。				
【授業実施上の留意点】 授業中にマークシートを利用する場合もあるので、鉛筆・消しゴムを持参すること。				

講義要綱

【授業科目名】臨床実習Ⅱ		【分野】専門分野		【学年】2年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【実習調整者】 片桐陽	【授業コマ数】25	【授業時間数】45	【単位数】1	
【一般目標:GIO】 外部施術所で見学・実習をすることにより、柔道整復師としての態度・知識・技術を習得する。 疾患の鑑別を適切に行い、適切な治療法を選択できるようにする。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 臨床見学と体験実習を通じて、医療従事者としての態度、実務技能を身に付ける。 各種検査法、測定法を理解し、実践できるようにする。 物療機器の取扱いを理解し、各疾患に対して適切な物療機器を選択し実施できるようにする。					
【 教 育 内 容 】					
< 前 期 >			< 後 期 集 中 >		
1.	ガイダンス	16.	} 外部施術所実習 4日目	17.	} 外部施術所実習 5日目
2.	} 外部施術所実習 1日目	18.		19.	
3.		20.		21.	
4.		22.	23.		
5.	} 外部施術所実習 2日目	24.	臨床実習報告会	25.	臨床実習報告会
6.		25.	臨床実習報告会		
7.					
8.	} 外部施術所実習 3日目				
9.					
10.					
11.					
12.					
13.					
14.					
15.					
【テキスト】 実施内容等については臨床実習の手引き、実習生資料を参考とする。					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、実習時の態度、課題等で総合的に評価を行う。					
【授業実施上の留意点】					